

報 告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城

国際せきずい損傷リハビリテーション協会 伊佐 拓哲

2015年5月30日～31日に仙台市の戦災復興記念館にて開催された「第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城」に参加させていただきました。

参加者は医療や福祉の現場職の方から福祉用具の製造販売の方や研究職の方まで様々なバックグラウンドをお持ちの方が参加されていたように見られました。

私自身は特段専門分野もなく頸髄損傷という当事者の立場で少しハードルは高いかもしれないが、勉強させていただくつもりで参加させていただきました。

講義は選択制で車椅子・義肢装具・教育・コミュニケーション・住環境といったジャンルに分かれ自由に組み合わせて受講することができました。私は自身が車椅子ユーザーということもあり、主に車椅子や住環境に関する講義を中心に選択しました。

不安もありましたが、様々なバックグラウンドの方が集まっているということで、講師の皆さんは丁寧で分かり易い言葉を選んで説明してくれていたようで十分理解することができました。

最も印象的だった講義は震災に関する歴史と現状を聞くことができた、特別企画でした。

まだバリアフリーの意識も少なかった時代に被災した障害者と最前線で向き合ってきた相良先生のお話をお聞きし、その改善が実はユニバーサルデザインという考え方につながっていることを実感いたしました。

守ってもらっていることが日常の障害者にとって非

常時の備えや心構え、どのような行動をとるべきかといった知識は、過去の震災の経験者からしっかり学ぶべきで、当事者こそ知っておかなければならないと感じました。

また東日本大震災で被災者となった巴先生からの震災から今日までの生のお話を写真も交えてお聞きすることができたのも非常に勉強になりました。

また講義はただ聞くだけにとどまらないのも大変魅力的です。さすがは技術者の集団と感じる部分がありますが、「まずはやってみよう」という仕掛けが多くちりばめられていて、持ち帰ってすぐに使ってみようとか見た目以上に簡単にはできないとか技術部分の気づきも持ち帰らせてもらうことができます。

今回実際にウレタンマットの背あてクッション作製の講義と実習に挑戦してみましたが、四肢麻痺の私には実習というより作業療法といった方が相応しかったかもしれません。



写真

私は製品やサービスを提供する立場ではないので誰にも迷惑をかけることはありませんが、知識としてはそのような技術や方法があり、姿勢を変えたければ変えられるという情報は苦勞した実習を経験した

国際せきずい損傷リハビリテーション協会

〒135-0042 東京都江東区木場 2-17-13

第二亀井ビル 3F

分忘れることはないでしょう。

最後になりますが、リハビリテーション工学協会は会員さんや研究者に障害当事者も多く、このような講習会では生の声が反映された技術や経験のお話を聞けるのが大変魅力的です。

そしてここに集まる方々は大半が講師も受講生も皆さん普段は先生と呼ばれている方々です。そしてそん

な最前線の先生方々は気取ることもなく気さくにお話をしてくださいます。そんな人間関係も大変魅力です。

初日の夜は懇親会も開催されます。もしこれを読んで参加してみようと思われた方、もしくは参加したことはあるけれど懇親会には参加したことがない方、ぜひ次回は合わせてご参加下さい。